

Local Area News

がんばる中小企業・小規模事業者300社に選定

(企)群馬中高年雇用福祉事業団

企業組合群馬中高年雇用福祉事業団(吉田英樹理事長、組合員45人)は、経済産業省が取りまとめた「がんばる中小企業・小規模事業者300社」の一社に選定され、3月3日、東京都・グラントプリンスホテル新高輪で開催された授賞式で表彰の栄に浴した。

経済産業省が、革新的な製品開発やサービス創造、地域貢献・地域経済の活性化等、様々な分野で活躍している中小企業・小規模事業者・商店街の取組事例を選定するもの。

同組合は設立時より一般廃棄物の収集・運搬及び処理を中核事業として活動。また、指定管理者として町のスポーツ広場、総合運動公園等の管理を受託する他、除草・枝打ちなどの緑化事業にも積極的に取り組んでいる。

選定理由は、同組合が中高年齢者と障害者の雇用機会の確保を目的として設立され、「社会弱者に仕事を」との考えのもと、障害者雇用

出展ブース



授賞式の様子

他に群馬県からは、有限会社COO-LO(桐生市)、株式会社小林機械(館林市)、株式会社柴田合成(台楽町)、株式会社ヌカベ(高崎市)、有限会社ネーブル(渋川市)、

株式会社松井ニット技研(桐生市)の6社が選定されている。選定された事業者や商店街は経済産業省のホームページで紹介されている。

講習会開催

群馬県再生資源事業(協)連合会

群馬県再生資源事業協同組合連合会(上岡克己会長、会員9組合)では、伊香保町・ホテル木暮において「禅に学ぶ経営のこころ」をテーマに講演会を開催した。講師は元高校の教師で、ネパールの小学校づくりの活動にも情熱を注いでいる長徳寺住職酒井大岳氏。

酒井氏は、次のような10の禅語を紹介し、「経営の世界に照らし合わせて、それぞれの立場で言葉が持つ意味を捉え、毎朝毎晩毎時、寝ても覚めても兄弟のように親しい気持ちで言葉に付き合っただけ」と呼びかけた。

一、放下着(ほうげじゃく)
いつまでもつまらないことに執着せず、大事な世界に目を向けること

二、随处作主(ずいしよにしゅとなる)
いつでも、自分の役割を果たすため振る舞い方を考えること
三、不立文字(ふりゆうもんじ)
文字や理屈ではなく自分自身の経験による実践が大切
四、一期一会(いちごいちえ)
一瞬一瞬を大切にすること
五、雨洗風磨(あめにあらいかせにみく)
苦難に耐えることで初めて立派な人物となれる



酒井大岳氏

六、見機而変(きをみてへんず)
常に変わる状況の中、常に相手のニーズを捉え実践すること
七、鼻孔長三尺(くわんがながさんさく)
偉くなるほど腰を低く頭を垂れること
八、慈眼視衆生(じげんしじゅうじょう)
部下や他人に対して慈愛のこもった優しい目で接すること

LAW

九、悲心（ひしん）

自分が味わった悲しみ苦しみを人に味わわせてはいけない

十、隨縁（ずいえん）

縁に従うこと。全ては避けられない運命であること

講習会開催

館林機械金属工業（協）

館林機械金属工業協同組合（三宅正俊理事長、組合員61人）では、2月5日、館林市・ジヨイハウスにおいて「生産現場における作業・業務改善の進め方」をテーマに講習会を開催した。講師は、株式会社オフィス・アドバン教育

コーディネーター長澤博司氏。

長澤氏は、「生産現場では、『人』『モノ』『設備』が複雑に絡み合っているため作業改善活動が重要である」と述べ、「まず、実績レベル（現実の姿）を把握し、課題（今何をすべきか）と問題（ギャップ）を確認し、最終的には、業務改善のレベル（あるべき姿）から改革レベル（将来ありたい姿）を指すべき」と訴え、『人』『モノ』『設備』の無駄の排除を実現する方策を説明した。



また、「改善活動は、個人の能力を引き出す『人財』育成にも効果がある」と述べ、「個人に必要な能力として①仕事の知識②職責の知

識③教える技能④改善する技能⑤

人を扱う技能がある」と説明し、「これらの能力を身に付けることで『やるべきこと』と『やれること』のギャップが埋まり、挑戦し続ける職場風土が確立される」と述べた。こうした改善活動を通じて「人在」を、居た方がよい「人材」に成長させ、最終的にはいなくでは困る「人財」にまで育成できる職場環境を整えることが重要であるとアドバイスした。

講習会開催

前橋市一般廃棄物処理事業（協）

前橋市一般廃棄物処理事業協同組合（横澤義夫理事長、組合員32人）では、2月13日、前橋市・前橋アルサにおいて、「印象管理」をテーマに新春講演会を開催した。講師は、印象管理アナリストの伊藤有希氏。

伊藤氏は、「印象管理とは、他者に与えるイメージを認知した上で、他者に与えたい印象をつくり出し、相手や状況に合わせて自在に印象を変えること」と説明。



参加者に対し質問を投げかけながら進行

次いで、東京五輪誘致の最終プレゼン等で印象管理が活用されている具体例を紹介した後、「印象を決める要因として、話の内容よりも、見た目や話し方、身振り等の非言語情報の比重が大きい。同じことを話しているのに伝わり方に違いが生じるのはこのためである。相手に上手く伝わらないと感じたら、話し方を工夫してみるのも一つの手である」と解説した。講演会は、印象管理の内容について参加者同士で実体験を話し合う場が設けられる等、対話の機会が多いものとなった。